

演題 「ラボサイドで行う咬合の設計」(咬合面設計の要点)

講演抄録

臼歯部補綴装置の咬合面形態が補綴治療の成否に大きな影響を及ぼすと言っても過言ではない。

咬合面の製作に於いては咬合面形態を上下で一對と考え、相互の各部の形態や位置について良好な関係が成り立ってこそ補綴装置としての機能を果たすものと考えてこれを設計、製作する必要がある。

支台歯やインプラントとの位置関係が対合歯に対して正常であればそんなに悩むことはないであろう。しかしながら日常臨床ではこの対合関係が正常でない症例を経験することも少なくはない。

本講演では咬合器の使い方や模型のトラブルなど基本的なことから、天然歯の形態を基に、対合関係が正常でない場合に機能的な咬合面形態を設計する為の工夫と、下顎運動を考慮した咬合面形態の設計についてお話ししたいと思います。